

マルシェでにぎわい創出

行政に頼らず大成功

弘前

弘大学生団体

弘前大学の学生団体「グローバル・アクション」が主催する青空市「フランス日和マルシェ」が9月28日、弘前市土手町の蓬萊広場で開かれ、多くの人でにぎわった。6回目の今年は、市の補助に頼らず、学生自らが運営資金を調達するなど、自立性が高い催しになった。予想以上の人出や出店数に、学生たちは「街の人の協力を得て、街ににぎわいをつくり出した」と手応えを語った。(菊谷賢)



フランス語による合唱も行われたマルシェ

マルシェには、飲食や手作り雑貨、花や野菜など、「地域を盛り上げたい」と前中から多くの家族連れらが訪れ、コーヒーやスイーツを味わい、おしゃれな雑貨を買い求めている。欧州の伝統的な楽器「手回しオルガン」も演奏され、異国

の雰囲気を出した。フランスの文化に関する講演会、フランスのカードゲーム、フランス語による合唱も行われ、交流の場が創出された。グローバル・アクションは少なくとも800人の来場があったとみている。

同団体は、弘前人文社会科学部の授業でフランスについて学ぶ学生らで構成。市内にあるフランス文化などを研究している。今回のマルシェは、持続可能なイベントを目指して、学生たちが中心になって、広告協賛集めや宣伝、出店依頼を行った。来場者アンケートには

「これからも続けてほしい」「昨年より出店数が増えてにぎわいがあったとてもよい」といった意見が寄せられた。齋藤莉帆代表（人文社会科学部3年）は「予想を超える出店があって大成功だった。これも街の人の協力があったからこそ。みなさんのつながりと、優しさを感じる事ができた」と語った。